



災害支援の 文化を 創造する

第7回 「災害時の連携を考える全国フォーラム」

日 時 2023年12月12日(火) 13:00~18:00 (交流会 18:30~20:00)
12月13日(水) 10:30~16:30

会 場 KFC Hall & Rooms 東京都墨田区横網 1-6-1
国際ファッションセンタービル

主 催 JVOAD 全国災害ボランティア支援団体ネットワーク

共 催 内閣府政策統括官(防災担当)
災害ボランティア活動支援プロジェクト会議(支援P)

後 援 復興庁、総務省消防庁、厚生労働省、国土交通省、環境省、全国知事会、全国市長会、全国町村会、北海道、岩手県、宮城県、福島県、茨城県、栃木県、埼玉県、千葉県、東京都、新潟県、石川県、長野県、静岡県、岡山县、広島県、徳島県、香川県、愛媛県、福岡県、佐賀県、熊本県、大分県、日本経済団体連合会、日本災害復興学会、日本財団、日本労働組合総連合会、阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

協 賛

撮影協力

助 成 金 ※本フォーラムの一部は、独立行政法人福祉医療機構(WAM)の令和5年社会福祉振興助成事業(モデル事業)「災害時の官民連携体制を検証・改善するための訓練プログラム開発事業」による助成金により実施しております。

「多様な担い手のさらなる連携の深化をめざして」

今年は4年ぶりにリアルな場で皆様とお会いでき、本当にうれしい気持ちでいっぱいです。災害が頻発する今、多様な支援の担い手がそれぞれのセクターを超えて一堂に会し、リアルな場で議論や交流の機会を持つことは、ますます重要であり、また特別な瞬間でもあります。

関東大震災から100年を迎える今、過去の教訓を思い起こし、未来への備えを共に考える時が来ています。本年は能登地方地震、6・7月大雨、台風などが相次いで発生し、各地で甚大な被害をもたらしました。

次の巨大地震までの猶予は幾ばくか、心配は募るばかりです。私たちはその時できる最善の対応をすると同時に、できる限りの備えをしておかなければなりません。

今回の第7回全国フォーラムが、相互理解を深め、さらなる連携を進める場となることを期待しています。本年10月には、これまでの情報共有会議の定着等の実績が評価され、「日本災害情報学会・廣井賞」を受賞いたしました。これからも課せられた責務に全力で取り組み、日本全体の災害対応力の充実に向けて邁進していく所存です。

本フォーラムの開催にあたり、関係する多くの皆様のご理解とご協力を賜りました。心より厚く御礼申し上げます。

特定非営利活動法人
全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD)
代表理事 栗田 暢之

開催趣旨

今年は関東大震災から100年という節目を迎えます。全国フォーラム会場となる、ここ東京都墨田区横綱では、火災により、この地域だけで3万8,000人ももの尊い命が奪われました。

今年、第7回災害時の連携を考える全国フォーラムでは、「災害支援の文化を創造する」をテーマに掲げ、災害が頻発する今、様々なセクターの枠を超えて、大規模災害に備えるためのつながりを作る場として、4年ぶりに会場でのリアルでの開催とさせていただきます。

南海トラフ巨大地震を見据えた支援の想定を共有し、支援課題(避難所、在宅避難、食と栄養などの分野)ごとに、巨大災害で被災した場合、どのような支援を目指すのか議論し、平時から各セクターの役割等を理解し、災害時に迅速な連携が取れることを目指します。

また、多様な支援関係者間での「共通認識」が醸成されることにより、支援の目的が明確になり、その目的に達成するために必要な「訓練」などの具体的な取組についても考えていきます。

主催・共催

主 催

JVOADは、東日本大震災での経験を踏まえ設立した組織です。2016年11月に法人化、2019年12月には認定NPO法人として認定されました。準備会の段階であった2015年関東・東北豪雨では官民連携の萌芽的な取り組みに尽力し、2016年熊本地震以降は、大規模災害が発生する度に現地に入り、支援活動を行っています。被災地では地域、分野、セクターを超えた関係者同士の「連携の促進」「支援環境の整備」「支援者間の調整(コーディネーション)」の実践に取り組んでいます。私たちはこの活動を通じて将来の災害に対する脆弱性を軽減することに貢献します。



内閣府政策統括官(防災担当)とは

防災に関して行政各部の施策の統一を図る特命大臣として防災担当大臣が置かれています。防災担当大臣の下、広範な分野において政府全体の見地から関係行政機関の連携の確保を図るため、内閣府政策統括官(防災担当)が防災に関する基本的な政策、大規模災害発生時の対処に関する企画立案及び総合調整を行っています。

災害ボランティア活動支援プロジェクト会議(支援P)とは

企業、NPO、社会福祉協議会、共同募金会などにより構築されるネットワーク組織です。災害ボランティア活動の環境整備を目指して、人材、資源・物資、資金を有効に活用するために、現地支援を行っています。

全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD)とは

役員

[代表理事]

栗田 暢之 (震災がつなぐ全国ネットワーク)

[理事]

大橋 正明 (国際協力NGOセンター)

加藤 大将 (日本青年会議所)

高橋 良太 (全国社会福祉協議会)

本木 時久 (日本生活協同組合連合会)

田口 努 (日本YMCA同盟)

阪本 真由美 (兵庫県立大学大学院)

安江 一 (日本赤十字社)

明城 徹也 (JVOAD事務局)

[監事]

大城 聡 (弁護士)

鶴町 昌司 (税理士)

運営委員

種村 香奈実 (震災がつなぐ全国ネットワーク)

河野 幸治 (公益社団法人 日本青年会議所)

吉田 建治 (特定非営利活動法人 日本NPOセンター)

楠 聖伸 (社会福祉法人 全国社会福祉協議会)

前田 昌宏 (日本生活協同組合連合会)

阪本 真由美 (兵庫県立大学大学院)

上島 安裕

(特定非営利活動法人 ジャパンプラットフォーム NGOユニット)

安江 一 (日本赤十字社)

石橋 英樹 (公益財団法人 日本YMCA同盟)

阿部 陽一郎 (社会福祉法人 中央共同募金会)

篠原 辰二 (北の国災害サポートチーム)

石原 達也 (特定非営利活動法人 岡山NPOセンター)

栗田 暢之

明城 徹也

顧問

西川 徹矢

室崎 益輝

山崎 美貴子

平井 興宣

会員

JVOADと共に活動する団体・企業です。(掲載は50音順)

いわてNPO災害支援ネットワーク、岡山NPOセンター、オペレーション・ブレスリング・ジャパン、カリタスジャパン、北の国災害サポートチーム、救世軍、グッドネーバース・ジャパン、国際協力NGOセンター、国土舘大学、災害医療ACT研究所、災害協働サポート東京、ジャパン・プラットフォーム、情報支援レスキュー隊、震災がつなぐ全国ネットワーク、真如苑救援ボランティア サーブ、全国社会福祉協議会、全国曹洞宗青年会、ダイバーシティ研究所、台湾佛教慈濟慈善事業基金会、中央共同募金会、難民を助ける会、日本NPOセンター、日本カーシェアリング協会、日本財団ボランティアセンター、日本生活協同組合連合会、日本青年会議所、日本赤十字社、日本搜索救助犬協会、日本ファシリテーション協会、日本YMCA同盟、日本YWCA、パーソナルサポートセンター、ピースボート災害支援センター、東日本大震災支援全国ネットワーク、福祉防災コミュニティ協会、末日聖徒イエス・キリスト協会/ヘルピングハンズ、ランゲージワン、レスキューストックヤード

正会員企業・団体 37組織(2023年11月時点)

賛助会員

JVOADを支援いただいている企業・団体です。(掲載は50音順)

ACTジャパンフォーラム、旭化成ホームズ、味の素ファンデーション、ADRA Japan、安藤・間、International Medical Corps Japan、MS&AD インシュアランス グループ ホールディングス、エムシープランナーズ、オリジン、花王、キヤノン、Cube Earth、光洋化学、国土防災技術、サイエンスクラフト、シェアリングエコノミー協会、シャンティ国際ボランティア会、新菱冷熱工業、セコム、全国日蓮宗青年会、全国労働金庫労働組合連合会、ソニー生命保険、損害保険ジャパン、DPLS JAPAN、東京海上ホールディングス、トレーラーハウス設置検査機構、共生・こころの会、トレーラーハウスデベロップメント、難民支援協会、日本司法書士会連合会、日本労働組合総連合会、フィリップ モリス ジャパン、防災安全協会、LINE ヤフー ※他4組織

賛助企業・団体 38組織(2023年11月時点)

個人

賛助会員個人 44人(2023年4月時点)

オープニングセッション

タイトル ▶ 「南海トラフ巨大地震、支援の“想定外”は無くせるか？」

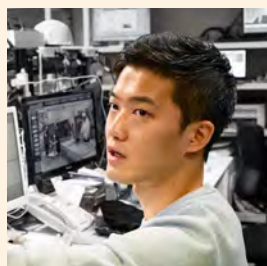
関東大震災から100年がたちました。毎年のように風水害や地震による被害が発生し、支援関係者もその対応に追われている状況が続いています。そうした中で国の中央防災会議では、南海トラフ巨大地震の被害予測と対策の見直しが始められています。南海トラフ巨大地震が発生した際には、日本はどのようなのか、被災者支援はどのように実施できるのか、有識者の方から、現在想定される状況について話題提供をいただきます。

また、巨大災害を想定した支援の備えは、どのようにしたら良いのかJVOAD関係者も交えて議論を進めていきます。



福和 伸夫 氏

中央防災会議 防災対策実行会議
南海トラフ巨大地震対策検討
ワーキンググループ 主査



藤島 新也 氏

NHK 大阪放送局 災害担当記者



阪本 真由美 氏

兵庫県立大学大学院
減災復興政策研究科
教授/JVOAD理事



栗田 暢之

NPO法人全国災害ボランティア
支援団体ネットワーク 代表理事

クロージングセッション

タイトル ▶ 「支援で「目指す姿」を実現するために」

オープニングでは南海トラフ巨大地震の想定について学び、各分科会ではテーマごとに支援で目指す姿について話し合いがすすめられました。

2日間の全国フォーラムを締め括るクロージングでは、「支援で目指す姿」を実現していくためには、どのような備えをしていかなければいけないのか、官民それぞれの立場からトークセッションを行います。

支援者間の連携体制づくりや、その体制を更に発展させていくための、次のアクションにむけた提言につなげていきます。



村上 威夫 氏

内閣府
政策統括官(防災担当)付
参事官(普及啓発・連携担当)



阿部 陽一郎 氏

中央共同募金会
常務理事・事務局長



高橋 良太 氏

全国社会福祉協議会
地域福祉部長
全国ボランティア・
市民活動振興センター長



明城 徹也

認定NPO法人
全国災害ボランティア
支援団体ネットワーク
事務局長



菅野 拓 氏

大阪公立大学
大学院文学研究科 准教授



宮川 祥子 氏

情報支援レスキュー隊
代表理事 /
慶應義塾大学看護医療学部
准教授

分科会登壇者

1日目 大規模災害にどうそなえるか

分科会
1-1
KFC Hall

官民連携のための「官」の体制づくり
内閣府



佐々木舞氏 明城徹也 楠聖伸氏 佐々木剛史氏 村田陽次氏 中島理子氏

分科会
1-2
Room111

地域の力を災害支援に活かそう!~災害支援ネットワークのこれから~
全国災害ボランティア支援団体ネットワーク (JVOAD)



篠原辰二氏 宮平未来氏 青山織衣氏 丸木崇秀氏 市川はるひ氏 本木時久氏

分科会
1-3
Room108

大規模災害における広域避難への備え~東日本大震災の事例より~
東日本大震災支援全国ネットワーク (JCN)



栗田暢之 澤上幸子氏 大城聡氏 桜井野亜氏 古部真由美氏

分科会
1-4
Room109

高齢者宅全戸訪問から見えた支援と課題~能登半島地震の現場から~
ピースポート災害支援センター



三上豊子氏 酒井明子氏 橋本笙子氏 大塩ざやか氏

分科会
1-5
Room107

「地域支え合いセンター」による切れない被災者支援を考える
全国社会福祉協議会



大迫雅俊氏 河内広行氏 高橋良太氏

分科会
1-6
Room112

多様性を尊重:声をあげることが難しい被災者を救うには
全国災害ボランティア支援団体ネットワーク (JVOAD)



浅野幸子氏 松川杏翠氏 野際紗綾子氏 五十嵐豪氏

2日目 支援分野・テーマごとに考える

分科会
2-1
KFC Hall

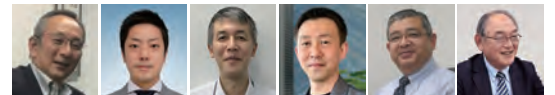
内水氾濫における建物保全の技術的対応
JVOAD技術系専門委員会



小林直樹氏 川村勇太氏 阿部由紀氏 肥田浩氏 松山文紀氏 戸島健人氏 馬目一浩氏

分科会
2-2
Room111

「企業と考える~災害中間支援組織と連携したよりよい支援のカタチ~」
全国災害ボランティア支援団体ネットワーク (JVOAD)



岡田英孝氏 茅野真孝氏 堀井浩之氏 和田篤氏 島山文明氏 吉田達彦氏

分科会
2-3
Room108

支援団体をささえる“被災者支援コーディネーター”
全国災害ボランティア支援団体ネットワーク (JVOAD)



柴田裕子 瀬川加織氏 田中和博氏 照井佑徳 安江一氏

分科会
2-4
Room109

クルマ被災にどう備えるか?
日本カーシェアリング協会



吉澤武彦氏 所澤新一郎氏 齋藤拓氏 本日文徳氏

分科会
2-5
Room107

風害を受けた地域がつくった災害中間支援組織の歩み
ピースポート災害支援センター、災害支援ネットワークちば (CVOAD)



加納基成氏 上島安裕氏 川島浩義氏 高島友和氏 菊田美智代氏 近藤恒史氏

分科会
2-6
Room112

「伝えた」「聞いてない!」を無くす!情報共有の課題と解決策!
岡山NPOセンター



石原達也氏 宮川祥子氏 富成敬之氏

分科会
3-1
KFC Hall

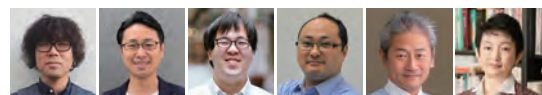
いざという時どうする?あなたの食と栄養~官民連携の好事例~
味の素ファンデーション



森谷哲氏 松島陽子氏 赤松芳和氏 原裕樹氏

分科会
3-2
Room107

ITで被災者をどう救えるのか?
災害支援DXイニシアティブ



石原達也氏 上島安裕氏 岸祐生氏 武田全史氏 畑山満則氏 宮川祥子氏

分科会
3-3
Room108

訓練をまなぶ
全国災害ボランティア支援団体ネットワーク (JVOAD)



黒沼健太郎氏 飯田進史氏 阪本真由美氏

分科会
3-4
Room109

災害ケースマネジメントにおけるファシリテーションの活用
日本ファシリテーション協会



新井大地氏 永野海氏 大澤佑介氏 鈴木まり子氏

分科会
3-5
Room111

被災者が参画しやすい避難所運営の環境づくり
JVOAD避難生活改善に関する専門委員会



田中治彦氏 辛嶋友香里氏 黒木知子氏

分科会
3-6
Room112

7月豪雨で見てきた平時の繋がりからの支援体制
佐賀災害支援プラットフォーム (SPF)



山田健一郎氏 新中隆明氏 今井健太郎氏 宮近由起子氏 小松美佳氏 伊藤雄司氏 篠原直人氏

12月12日(火)

12:00

受付開始

13:00~13:30

オープニング(挨拶)

主催者挨拶

JVOAD 代表理事 栗田 暢之

共催挨拶

内閣府特命担当大臣(防災) 松村 祥史氏

来賓挨拶

津田塾大学総合政策学部客員教授 全国社会福祉協議会会長、
中央共同募金会会長、全国老人クラブ連合会会長

村木 厚子氏



栗田 暢之



松村 祥史氏



村木 厚子氏

13:30~15:00

オープニングセッション

「南海トラフ巨大地震、支援の“想定外”は無くせるか？」

15:00~15:30

協賛企業・団体紹介

15:30~16:00

休憩

16:00~17:30

分科会
1-1

官民連携のための「官」の体制づくり

KFC Hall

分科会
1-2

地域の力を災害支援に活かそう!~災害支援ネットワークのこれから~

Room111

分科会
1-3

大規模災害における広域避難への備え~東日本大震災の事例より~

Room108

分科会
1-4

高齢者宅全戸訪問から見えた支援と課題-能登半島地震の現場から-

Room109

分科会
1-5

「地域支え合いセンター」による切れ目のない被災者支援を考える

Room107

分科会
1-6

多様性を尊重:声をあげることが難しい被災者を救うには

Room112

18:30~20:00

交流会(別途申込者のみ)

12月13日(水)

9:30 受付開始

10:30~12:00

分科会
2-1

内水氾濫における
建物保全の技
術的対応

KFC Hall

分科会
2-2

“企業と考える～災
害中間支援組織と
連携したよりよい
支援のカタチ～”

Room111

分科会
2-3

支援団体をささえ
る“被災者支援
コーディネーター”

Room108

分科会
2-4

クルマ被災にどう
備えるか?

Room109

分科会
2-5

風害を受けた地
域がつくった災害
中間支援組織の
歩み

Room107

分科会
2-6

「伝えた」「聞い
てない!」を無く
す!情報共有の課
題と解決策!

Room112

12:00~13:00

休憩

13:00~14:30

分科会
3-1

いざという時どう
する?あなたの食
と栄養～官民連
携の好事例～

KFC Hall

分科会
3-2

ITで被災者をどう
救えるのか?

Room107

分科会
3-3

訓練をまなぶ

Room108

分科会
3-4

災害ケースマネジ
メントにおける
ファシリテーショ
ンの活用

Room109

分科会
3-5

被災者が参画しや
すい避難所運営
の環境づくり

Room111

分科会
3-6

7月豪雨で見えて
きた平時の繋がり
からの支援体制

Room112

14:30~15:00

休憩

15:00~16:30

クロージングセッション

「支援で「目指す姿」を実現するために」

閉会の挨拶

挨拶

東京ボランティア・市民活動センター 所長
東京災害ボランティアネットワーク 共同代表 / 他 山崎 美貴子氏



山崎 美貴子 氏

分科会
1-1

官民連携のための「官」の体制づくり

災害中間支援組織への注目が高まる中、災害時の官民連携を有効に機能させるためには、平時からの連携・協働を促進するための行政の側の対応も急務である。このセッションでは、内閣府が令和5年度から実施している「官民連携による被災者支援体制整備事業」のモデル事業実施県の担当者を交え、事業の取組状況やその中で見えてきた成果や課題、特に行政に期待される役割などを共有し、横展開を図ることで、全国での災害中間支援組織の設置や活動の高度化を促進する。

企画者 内閣府 場所 KFC Hall

全体進行 佐々木 舞氏 内閣府 政策統括官(防災担当)付 参事官(普及啓発・連携担当)付 参事官補佐

コメンテーター 明城 徹也 認定NPO法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク 事務局長

楠 聖伸氏 全国社会福祉協議会 全国ボランティア・市民活動振興センター 副部長

話題提供 佐々木剛史氏 徳島県 危機管理環境部 とくしまゼロ作戦課 係長

村田 陽次氏 東京都 生活文化スポーツ局 都民生活部 地域活動推進課 課長代理(活動支援国際担当)

中島 理子氏 三重県 環境生活部 ダイバーシティ社会推進課 主事 NPO班

分科会
1-2

地域の力を災害支援に活かそう!~災害支援ネットワークのこれから~

都道府県域においては、支援を行う組織同士がネットワークを構築することで、地域の災害対応力を強化する動きが始められています。災害支援のネットワークがあることで、支援リソースが把握でき、個々の組織のスキルアップにつながり、組織同士の連携した支援体制が作られる、といったことを想定し、JVOADでも、助成金や企業からの寄付金、「災害支援そなえ令和基金」を活用し、各地のサポートを行っています。本分科会では、各地の取り組み事例を紹介するとともに、支援のすそ野を広げていくための課題に対して、これから災害支援に関わりたいと思っている企業やNPO等が、どのようにネットワークに参加したらよいかを一緒に考える機会とします。

企画者 全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD) 場所 Room111

登壇者 篠原 辰二氏 北の国災害サポートチーム 代表 / JVOAD 運営委員

宮平 未来氏 災害プラットフォームおきなわ事務局長 / キャンプ沖縄事業協同組合(CAMP-O 協同組合) 副代表理事

青山 織衣氏 おおさか災害支援ネットワーク世話役団体 大阪ボランティア協会 事務局主幹

丸木 崇秀氏 損害保険ジャパン株式会社 経営企画部 特命部長 サステナビリティ推進グループ

市川はるひ氏 武田薬品工業株式会社 グローバルコーポレートアフェアーズ グローバルCSR 寄付プログラム&パートナーシップ(日本)課長代理

進行 本木 時久氏 日本生活協同組合連合会 執行役員 組織推進本部本部長 / JVOAD 理事

分科会
1-3

大規模災害における広域避難への備え~東日本大震災の事例より~

東日本大震災では津波・地震・原発事故により多くの方が広域避難を余儀なくされました。JCNでは広域避難者の災害ケースマネジメントに取り組み、支援事例や広域避難における課題を明らかにしてきました。避難先での住まいの問題、住民票の問題、避難先における支援格差の問題等、今後の大規模災害に備えて考えるべき課題が多くあります。一方で、避難先で避難者を支援している団体の活動からはネットワークや連携の必要性など今後の災害に向けて、必要なことも明らかになってきました。本分科会では、大規模災害に備えて、広域避難者の支援について一緒に考えることができると考えております。

企画者 東日本大震災支援全国ネットワーク(JCN) 場所 Room108

登壇者 栗田 暢之 東日本大震災支援全国ネットワーク(JCN)共同代表世話人

澤上 幸子氏 NPO法人えひめ311 副代表理事 兼 事務局長

大城 聡氏 福島子どもたちを守る法律家ネットワーク(SAFLAN)事務局長 / 弁護士 / JVOAD 監事

桜井 野亜氏 沖縄じゃんがら会代表

古部真由美氏 まるっと西日本 代表世話人

分科会

1-4

高齢者宅全戸訪問から見た支援と課題 一能登半島地震の現場から一

近年、気候変動の影響もあり、地震だけでなく大雨・土砂災害などの災害が頻りに発生している。大規模災害になるとDMATや救護班などの医療チームが結成され、被災地に入るが、その活動は本部活動や病院・避難所の医療支援・搬送支援がほとんどである。災害時保健活動は、その医療救護活動と密接に関係するが、急性期から亜急性期に活動が変わる中、そのフェーズも異なってくる。被災者を誰一人取りこぼすことなく、どのような情報を集め、それをどう災害時の保健福祉活動、そして生活再建に繋げていくか、石川県能登地方地震の事例から、今後の連携を考える。

企画者 ピースポート災害支援センター **場所** Room109

登壇者 三上 豊子氏 珠洲市健康増進センター 所長
酒井 明子氏 福井大学 名誉教授
橋本 笙子氏 特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン 国内事業部次長
大塩さやか氏 一般社団法人ピースポート災害支援センター

分科会

1-5

「地域支え合いセンター」による切れ目のない被災者支援を考える

生活環境の回復が一定程度見られる回復・復興期は、被災者の生活再建を主な目的とした「地域支え合いセンター」による被災者支援が行われている。しかし、被災した住民が抱える課題が多岐にわたることから、回復・復興期では被災地元の地域力(地縁・隣近所の助け合いなど)が被災者の生活再建に必要な不可欠であるが、そうした考えは浸透されておらず、地域支え合いセンター自体の設置も行政からの指示待ちと捉える社協も少なくない。本分科会では、平成30年豪雨での広島県からの事例報告から、災害ボランティアセンター立ち上げ時から回復・復興期を見据えることの必要性の理解、被災者への切れ目のない支援を社協が応援する意義、多様な住民との協働の必要性について、あらためて考える機会としたい。

企画者 全国社会福祉協議会 **場所** Room107

登壇者 大迫 雅俊氏 NPO法人 SKY協働センター代表理事 / 坂町総合戦略推進会議委員
河内 広行氏 社会福祉法人広島県社会福祉協議会 地域福祉課課長
高橋 良太氏 社会福祉法人全国社会福祉協議会 地域福祉部長 / 全国ボランティア・市民活動 振興センター長

分科会

1-6

多様性を尊重:声をあげることが難しい被災者を救うには

災害時には、高齢者、障がい者、子どもなど、災害の影響をより受ける。また、特に、障がい者、子ども、女性やセクシャルマイノリティの方々など、適切な支援の手が届かないことが多い。それぞれの領域の専門家や団体により支援が行われているが、被災者支援を全般的に行う支援者との接点はまだ限定的である。本分科会では、専門的な支援を展開する団体や専門家から、多様性に配慮した支援の取り組み事例を学び、災害支援を専門とする支援者等とのつながりを作り、連携した支援の在り方を考える。

企画者 全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD) **場所** Room112

登壇者 浅野 幸子氏 減災と男女共同参画 研修推進センター 共同代表
松川 杏寧氏 兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科 准教授 / NPO DERAIT メンバー
野際紗綾子氏 AAR Japan[難民を助ける会]支援事業部マネージャー 兼 アドボカシーマネージャー
五十嵐 豪氏 認定NPO法人CWS Japan/
プログラムマネージャー 支援の質とアカウンタビリティ向上ネットワーク(JQAN)/代表

分科会
2-1

内水氾濫における建物保全の技術的対応

毎年のように頻発する水害のほとんどが内水氾濫です。今年発生した秋田市での水害への対応をしていく中で、地元支援組織(社協やその他団体等)とJVOAD技術系専門委員会らが協力して、秋田市を例にして内水氾濫の建物保全の説明資料を作成した資料を作成しました。この資料は、今後市町村ごとにアレンジして使用されることを想定しています。本分科会では、他市町村版にアレンジするためのポイントを解説するとともに、これまでに各団体が作成し、被災地域で活用している資料等(冊子など)も紹介し、技術や知識、対応方法を広めるきっかけとします。

企画者 JVOAD技術系専門委員会 **場所** KFC Hall

登壇者 小林 直樹氏 災害支援団体 風組関東 代表 / JVOAD 技術系専門委員会委員
 川村 勇太氏 ピースボート災害支援センター(PBV) 技術対応チーム リーダー
 阿部 由紀氏 BIG UP石巻 / JVOAD技術系専門委員会委員
 肥田 浩氏 OPEN JAPAN / JVOAD技術系専門委員会委員
 松山 文紀氏 震災がつなぐ全国ネットワーク事業担当責任者(役員) / 災害対応NPO_MFP代表 / JVOAD技術系専門委員会委員
Web登壇者 戸島 健人氏 社会福祉法人秋田市社会福祉協議会 地域福祉課 課長補佐
 馬目 一浩氏 災害支援ネットワークIwaki(DSNI)会長 / いわき市南松山 光明院 阿弥陀寺 副住職

分科会
2-2

“企業と考える～災害中間支援組織と連携したよりよい支援のカタチ～”

全国各地で災害が多発する中、企業の支援活動も多様化しています。行政との協定をベースとした支援、社員ボランティアや災害ボランティアセンターの運営支援、NPOや災害中間支援組織を支えている企業もあります。また、その取り組みへの考え方も社会貢献がベースであったり、本事業を活かしたものであったり、ビジネス的な観点を取り入れるなど様々です。本分科会では、災害中間支援組織と企業が連携することで、どのような支援を進めていけるのか。その課題なども取り上げながら、被災地・者の課題解決に向けて、両者がともに取り組むことで出来る事を、いくつかの企業事例を伺いながら、企業、災害中間支援組織、NPO等で交流をしながら考えていきます。

企画者 全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD) **場所** Room111

分科会協賛 日本製紙グループ 日本製紙クレシア株式会社

登壇者 岡田 英孝氏 エム・ビー・エス株式会社 取締役
 茅野 真孝氏 株式会社ベikalレント・コンサルティング マネージャー
 堀井 浩之氏 株式会社安藤・間 経営戦略本部イノベーション部副部長
 和田 篤氏 東京海上日動火災保険株式会社 損害サービス業務部 / 戦略推進チーム 次長
 畠山 文明氏 株式会社エムシーブランナース 代表取締役
 吉田 達彦氏 一般財団法人トレーラーハウス設置検査機構 事務局長

分科会
2-3

支援団体をささえる“被災者支援コーディネーター”

JVOADでは、被災者支援コーディネーション委員会を設置し、これまでに都道府県域や分野別の被災者支援コーディネーション・ガイドラインを作成してきた。また、2022年からガイドラインを基に、被災者支援コーディネーターの育成にも着手し始めた。本分科会では、災害時に支援のもれ・むらなく、スムーズなコーディネーションが推進されることを目指し、地域の災害中間支援組織や、災害対応を実施する団体、グループが、災害時の「コーディネーターの役割」と「コーディネーションの仕組み」について理解を深める。

企画者 全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD) **場所** Room108

司会 柴田 裕子 認定NPO法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD)
登壇者 瀬川 加織氏 NPO法人いわて連携復興センター 防災担当 / いわてNPO災害支援ネットワーク 事務局
 田中 和博氏 奈良県社会福祉協議会総合ボランティアセンター
 照井 佑徳 認定NPO法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD)
モデレーター 安江 一氏 日本赤十字社 事業局 救護・福祉部 次長

分科会

2-4

クルマ被災にどう備えるか？

クルマ被災への備えは非常に重要であるが、十分に認識されていない実情にある。例えば、災害時にクルマが被災することは皆承知しているが、そのことが被災者へどんな影響を与え、どれ位の規模起こっているのか把握すらされていない。まずは、ここにしっかりと焦点を当て、今後どのような備えの体制が必要で、そのためには何ができるかを探っていく。そして、クルマを所有するすべての人々がクルマ被災への認識を高めると共に、クルマ被災に対して真剣に向き合い、具体的な備えを実行できる体制を目指す。

企画者 日本カーシェアリング協会 **場所** Room109

登壇者 吉澤 武彦氏 一般社団法人日本カーシェアリング協会 代表理事
所澤新一郎氏 一般社団法人共同通信社 気象・災害取材チーム長
齋藤 拓氏 一般社団法人日本自動車連盟(JAF) 経営企画部経営企画課 主管
本田 文徳氏 いわき市 災害対策課 地域防災係長

分科会

2-5

風害を受けた地域がつくった災害中間支援組織の歩み

2019年に千葉県房総半島に上陸した台風15号は25市15町1村に対し7万棟を超える住宅に被害を出した。50を超える団体が支援に駆けつけたが、地域ごとに支援内容や行政、社協との連携体制が異なった。その状況を受け千葉南部災害支援センターを設立。屋根へのブルーシート張りなどを通じた支援の連携体制を構築し、現在もみなし仮設の退所者へ向けた支援を継続している。また次の災害に備え災害中間支援組織の機能をもつ災害支援ネットワークちば(CVOAD)を設立し、人材育成や県内外とのネットワーク構築を実施している。本プログラムではその真っ只中におきた2023年9月の台風13号へ対する支援状況についても紹介する。

企画者 ピースボート災害支援センター、災害支援ネットワークちば(CVOAD) **場所** Room107

登壇者 加納 基成氏 一般社団法人千葉南部災害支援センター / 災害支援ネットワークちば CVOAD
上島 安裕氏 一般社団法人ピースボート災害支援センター理事 / 事務局長
川島 浩義氏 特定非営利活動法人災害救援レスキューアシスト
高島 友和氏 公益財団法人日本財団
菊田美智代氏 災害支援ネットワークちば CVOAD / 一般社団法人千葉南部災害支援センター
近藤 恒史氏 茂原市 総務部 防災対策課 副主幹

分科会

2-6

「伝えた」「聞いてない!」を無くす!情報共有の課題と解決策!

災害発生時における三者連携の象徴であり、支援状況や課題の共有とマッチングを行う場として情報共有会議の開催が定着化してきました。一方で被災地域が拡大するほど共有する情報が多く煩雑になり会議自体の進行も難しいことや、活動で疲れた中で夜に集まることの限界、またお知らせしたいタイミングでできないことなど、様々な課題が多くあります。そこで災害時における支援団体間、行政・社協とNPO間の情報共有のあり方について考えます。また、その改善のためのプラットフォームとして開発したアプリ「災凶」の紹介や活用方法についても参加者の皆さまと考えます。

企画者 岡山NPOセンター **場所** Room112

登壇者 石原 達也氏 NPO法人岡山NPOセンター 代表理事 / 災害支援ネットワークおかやま 世話人
宮川 祥子氏 情報支援レスキュー隊 代表理事 / 慶應義塾大学看護医療学部 准教授
富成 敬之氏 株式会社EvoLiNQ 代表取締役 / 一般社団法人 情報支援レスキュー隊 運営委員 / Code for Toyama City 代表

分科会
3-1

いざという時どうする?あなたの食と栄養~官民連携の好事例~

地域の災害対応力の向上が求められる中、公助には限界があることを改めて認識した上で、官民連携力をいかに高めていけるかが急務であり、これまで以上に重要視されている。地域の官民連携ネットワークによる災害マネジメントサイクルの好事例を共有することで、各地域の官民連携力アップに向けた取り組みのヒントや気づきを得ていただくと同時に、「いつも」を「もしも」に活かす「食と栄養」の取り組みに繋げていただきたい。

企画者 味の素ファンデーション **場所** KFC Hall

登壇者 森谷 哲氏 認定NPO法人全国子ども食堂支援センター・むすびえ 防災士 / 准認定ファンドレイザー / 認定ワークショップデザイナー
 松島 陽子氏 特定非営利活動法人U.grandma Japan(うわじまグランマ) 代表理事
 赤松 芳和氏 宇和島市総務企画部危機管理課 課長補佐(防災士)
 原 裕樹氏 公益財団法人味の素ファンデーション 被災地復興応援事業担当 マネージャー

分科会
3-2

ITで被災者をどう救えるのか?

2023年4月、災害支援の現場を経験している4つの組織が連携し、より早く、より多く、より確かな支援の実現のためのDX活用を目指し、「災害支援DXイニシアティブ」を発足しました。DX活用は、被災者支援の現場のみならず、国の方でもDXによる災害支援に力を入れてきており、関心をもっている企業も増えています。現場を知っている支援団体だからこそ見える課題、技術的なノウハウを持っている企業、被災者支援に関わる行政、社会福祉協議会等、多様な視点で、「ITで被災者をどう救えるのか?」を考えていきたいと思えます。

企画者 災害支援DXイニシアティブ **場所** Room107

登壇者 石原 達也氏 NPO法人岡山NPOセンター 代表理事 / 災害支援ネットワークおかやま 世話人
 上島 安裕氏 (一社)ピースボート災害支援センター / 理事 / 事務局長
 岸 祐生氏 NPO法人岡山NPOセンター 地域連携センター 主任アドバイザー / 災害支援担当
 武田 全史氏 株式会社Cube Earth 代表取締役 社長
 畑山 満則氏 (一社)情報支援レスキュー隊(IT DART) 理事、京都大学防災研究所 教授
 宮川 祥子氏 (一社)情報支援レスキュー隊(IT DART) 代表理事、慶應義塾大学看護医療学部准教授

分科会
3-3

訓練をまなぶ

昨今の自然災害への対応をふまえて、支援者間(行政、ボランティア、NPO・企業等)の連携の重要性はこれまで以上に高まっています。各地で連携体制の構築が進められているなかで、その体制が実際に機能するのか、訓練等を通じて事前に確認し、改善するためのサイクルは、まだ十分にできていない状況です。そこで、この分科会では、連携体制を築いていくことに不可欠な支援者間の相互理解(共感)について考えていきます。「相互理解」や「共感」を進めるには、どんな取り組みが必要なのか、各地では、どんな取り組みが行われているのかなど、皆さんと話し合い、意見交換しながら、さまざまな方法を見いだしていきたいと思えます。

企画者 全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD) **場所** Room108

登壇者 黒沼健太郎氏 東京海上日動火災保険株式会社 総務部 関西災害対策推進室
 飯田 進史氏 パシフィックコンサルタンツ株式会社 防災事業部 室長
 阪本真由美氏 全国災害ボランティア団体支援ネットワーク(JVOAD) 理事

分科会

3-4

災害ケースマネジメントにおけるファシリテーションの活用

災害ケースマネジメントは、被災者一人ひとりに必要な支援を行うために、訪問等のアウトリーチにより被災者の状況を把握し、官民連携の下、多様な課題に対応することで被災者の主体的な自立・生活再建のプロセスを支援する被災者支援の手法である(内閣府 災害ケースマネジメント実施の手引きより)。災害ケースマネジメントにおけるケース会議および情報連携会議を円滑に進めるために、会議運営者にはファシリテーションスキルが求められる。この分科会では、被災地での災害ケースマネジメントでの会議におけるファシリテーション活用の事例を紹介すると共に、円滑な会議の運営に向けて、どのようにファシリテーションスキルを活用するのかについて考える。

企画者 日本ファシリテーション協会 **場所** Room109

登壇者 新井 大地氏 内閣府 政策統括官(防災担当)付 参事官(避難生活担当)付 参事官補佐
永野 海氏 弁護士・防災士 日本弁護士連合会 災害復興支援委員会副委員長 / 静岡市教育委員会 学校防災アドバイザー
大澤 佑介氏 社会福祉法人 静岡市社会福祉協議会 静岡市地域支え合いセンター長
鈴木まり子氏 日本ファシリテーション協会災害復興委員会・フェロー

分科会

3-5

被災者が参画しやすい避難所運営の環境づくり

当専門委員会では、避難所で被災者の心身の健康と活力、尊厳を守り、困りごとの早期発見・解決を図るためには、被災者自身が運営に積極的に参画することが要の一つになると考えてきました。しかし、自治体や地域、NPO等の支援者からは、平時も災害発生時も「避難所の自主運営」の望ましい在り方や具体的な取り組み方法が分からず、多くの悩みを抱えているという声が聞かれています。そこで本分科会では、過去の災害の事例に、あらゆる分野で取り入れられている住民参画やエンパワメント等の観点を加え、被災者が参画しやすい避難所運営の環境づくりについて深く掘り下げます。

企画者 JVOAD避難生活改善に関する専門委員会 **場所** Room111

登壇者 田中 治彦氏 上智大学名誉教授 / (認定NPO)開発教育協会監事 / (学)東京YMCA学院評議員 / 龍ヶ崎市最上位計画策定審議会副会長
辛嶋友香里氏 一般社団法人 ピースボート災害支援センター(PBV) 国内災害事業 / 現地コーディネーター
黒木 知子氏 岡山県倉敷市真備町 住民 / 防災 ネイリスト

分科会

3-6

7月豪雨で見えてきた平時の繋がりからの支援体制

令和5年7月8日からの大雨土砂災害では、県内の佐賀市・唐津市においては、お亡くなりになる方々もいる大変状況で現在も支援活動を続けています。佐賀市においては、過去の被災経験とそれからの三者連携会議等を地道に実施してきました。また、一方で唐津市は、初めての被災でこれまでの繋がりがほとんどないという状況からスタートしました。2つの地域での支援活動を通じて見えてきた【平時からの連携の有用性】【何を備えていればよかったのか】等実際の支援事例の報告を交えながらお話させていただきます。

企画者 佐賀災害支援プラットフォーム(SPF) **場所** Room112

ファシリテーター 山田健一郎氏 佐賀災害支援プラットフォーム 共同代表 / 公益財団法人佐賀未来創造基金 代表理事
登壇者 新中 隆明氏 佐賀災害支援プラットフォーム 事務局
今井健太郎氏 佐賀災害支援プラットフォーム 事務局 / sien sien west 代表
宮近由起子氏 佐賀災害支援プラットフォーム 共同代表
Web登壇者 小松 美佳氏 佐賀県社会福祉協議会 まちづくり課 副課長
伊藤 雄司氏 唐津市社会福祉協議会 地域福祉課
篠原 直人氏 唐津市 福祉総務課

協賛・撮影協力・物資協賛 一覧

全体協賛



災害時の「食と栄養」の問題に対し、公助には限界があるため、『いつも』から官民連携を高めておくことが重要であり、啓発・支援を進めています。



デジタルを駆使した共創により新たな価値を生み出す社会変革アクセラレーターとして、自治体やNPO、企業と共に被災者の一日でも早い復旧を支援します。



総合建設会社である当社と連携先4社との防災関連の協業事例を紹介いたします。①スマート防災システム ②汚泥処理等素材 ③発電床 ④発電鉢植え植物



災害対応時の情報収集や活用をサポートし、デジタル化の推進の支援、現場の負担を低減するWeb型サービス「D-Resilio Viewer」のご紹介。



「花王の社会貢献活動」、「災害時にも役立つ花王製品」について出展いたします。動画や実物展示も行いますのでぜひお立ち寄りください。



ボランティアさんの導線作りや避難所の情報伝達に有効な掲示物を作成できる「かくだい君」を展示しています。ぜひご覧ください。



日本生協連は、全国の地域の生協とともに、行政・社協などと連携し、全国で発生する災害での支援活動に努めています。



「赤ちゃんも避難した1人。だけど大人とは違う」避難所に赤ちゃんの居場所を。段ボール製コット "Combi ベビーにこっと"のご紹介。



SeRV(サーブ:真如苑救援ボランティア)は、真如苑の信徒によるボランティアグループです。災害が発生時には全国の施設を拠点に活動します。



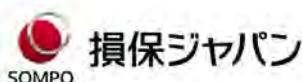
(株)サイエンスクラフトは、防災計画・マニュアルの作成や研修・訓練の企画・実施支援等を行う防災専門のコンサルティング会社です。



生団連は、企業・団体・消費者が一体となり、生活者視点で活動を行う団体です。ブースでは刊行物の配布やパネル展示を行います。



消防・警察・自衛隊の方の為に装備品をカタログ・ECにて販売しております。ブースでは災害救助支援、防災品等の展示を行います。



当社は「災害に強い地域社会づくり」を目指しています。ブースでは逃げ地図づくりワークショップ、できるかもリスト等を紹介いたします。



わたしたち大和無線電器は環境に配慮した機器などを通じて安心を提供します。突然おこるあらゆる災害に、安全な未来をサポートいたします。



従来の衛生品ではなく、ワンランク上の「衛生美容品」として満足いただける、高機能ドライシャンプーシートをご案内いたします。



『給電車』は電気自動車だけではなく、災害時の電力確保、医療機器の稼働などの手段として『給電車』も使える可能性があることを知っていただきたい。



ヘルピングハンズは、より良い地域社会のために活動をしています。全国約260カ所の拠点が、緊急時には支援活動の前線基地として機能します。



広島工業大学様と共同開発で避難所のDX化を推進。避難者の方が安心、安全に過ごせるよう避難所でのQOL向上のためのシステムです。

分科会協賛



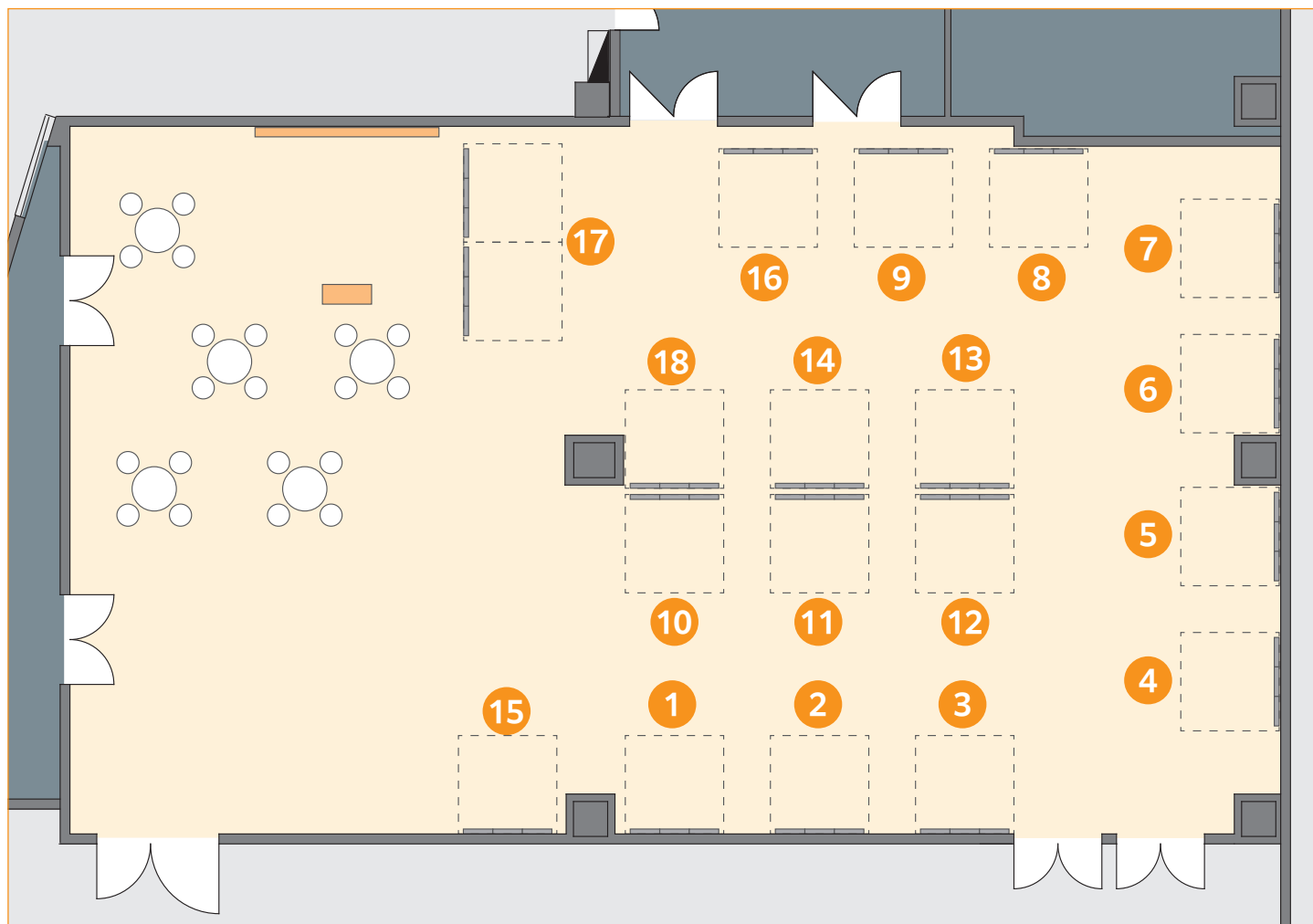
物資協賛



撮影協力



ブース出展案内



出展者一覧

1	エム・ビー・エス株式会社
2	末日聖徒イエス・キリスト教会/ヘルピングハンズ
3	株式会社安藤・間
4	花王株式会社
5	株式会社アルファ・クリエイト セイバーズ事業部
6	生団連(国民生活産業・消費者団体連合会)
7	コンビウイズ株式会社
8	株式会社ティー・エイチ・ティー
9	トヨタ自動車株式会社

10	株式会社NTT データ
11	日本生活協同組合連合会
12	損害保険ジャパン株式会社
13	大和無線電器株式会社
14	株式会社 三宅
15	災害支援そなえ令和基金
16	全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD)パネル展示
17	全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD) 会員資料など紹介(チラシなど)
18	全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD)パネル展示

会場案内

3F

[ホワイエ]

受付

[KFC Hall]

オープニング

交流会

クロージング

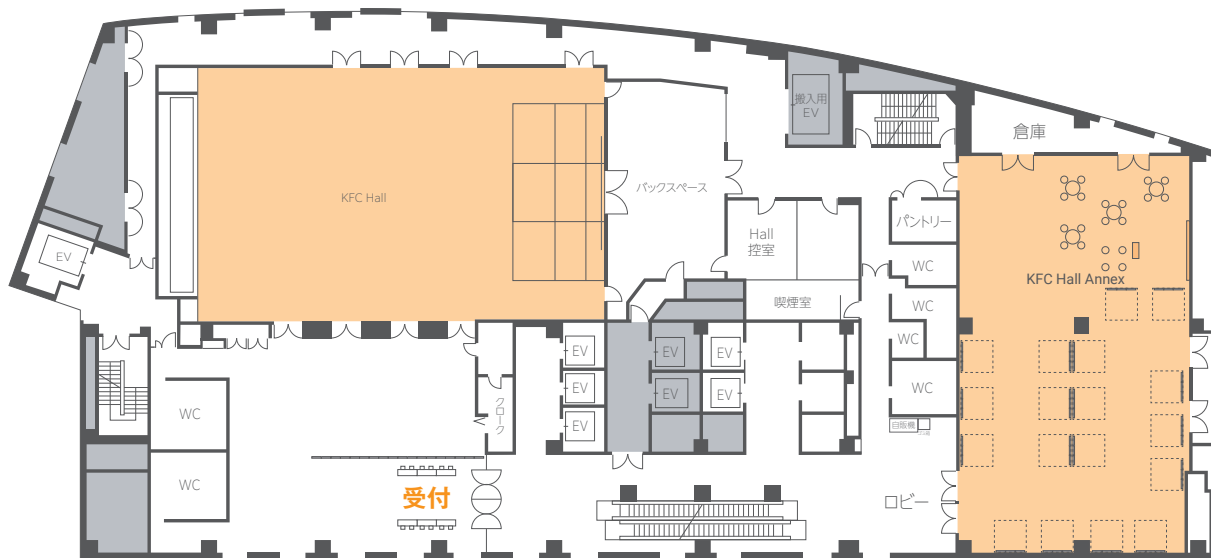
分科会

1-1、2-1、3-1

[KFC Hall Annex]

協賛企業・団体

ブース出展



10F

[Room107]

分科会

1-5、2-5、3-2

[Room108]

分科会

1-3、2-3、3-3

[Room109]

分科会

1-4、2-4、3-4



11F

[Room111]

分科会

1-2、2-2、3-5

[Room112]

分科会

1-6、2-6、3-6



喫煙 3F・10F・11Fの喫煙室をご利用ください。 自動販売機 10Fラウンジ付近にご置きます。 その他 拾得物やその他ご不明な点は受付までお問い合わせください。

お問い合わせ

特定非営利活動法人(認定NPO法人) 全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD)

〒100-0004 東京都千代田区大手町2-2-1 新大手町ビル 267-B TEL:080-5961-9213(直通) / E-mail:info@jvoad-forum.jp